

様式1 **令和2年度 清瀬市立清瀬中学校 学校評価計画**

| | | | |
|---------------------|--|------------------------------|---|
| 学校の教育目標 | 人間尊重を基本理念に国際的視野にたち平和を愛する社会人の形成をめざして、正しい判断力と粘り強い実践力をもった生徒を育てる ・健やかな身体と豊かな情操をもった生徒を育てる ・高い知性とたくましい創造力をもった生徒を育てる | 育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動 | 本校の教育目標に基づき、中学校教育を通じて中学校卒業段階における社会人基礎力の育成を目指すという視点から、育成を目指す資質・能力を「前に踏み出す力」、「チームで働く力」、「考え抜く力」、「社会人基礎力」、経済産業省)とし、あらゆる教育活動を通じて育成を図る。 また、インクルーシブ教育の推進を本校の特色ある教育をし、各教科の授業や学校行事、給食、部活動などにおける、特別支援学級と通常学級の生徒との交流及び共同学習を中心的な内容とする。そのために通常学級と特別支援学級の合同学年会を行うとともに、体育行事及び文化行事の各委員会において交流及び共同学習を企画し運営する。 |
| 目指す学校像(ビジョン) | ○生徒にとって楽しく行きたいのある学校 ○保護者にとって親しみがあり、地域に根ざした学校 ○教職員にとって自己研鑽に励み、協力して進める学校 ○正しい判断力と粘り強い実践力をもった生徒 ○健やかな身体と豊かな情操をもった生徒 ○高い知性とたくましい創造力をもった生徒 ○常に生徒のことを第一に考える教師 ○生徒のためという同一の視点に立って協力し、体罰を許さぬ教師 ○自己研鑽に励み授業改善に取り組む教師 | | |

前年度までの学校経営上の成果と課題

命の教育、インクルーシブ教育、国際理解教育の3点の推進に重点を置いて学校の運営を行っている。前年度はインクルーシブ教育についての教員の理解を深め、より一層連携を密にした結果、集団に馴染めなかった生徒も、取り組みを進めるうちに交流するようになってきている。今後は、体験的な学習活動のカリキュラムマネジメントを行うと同時に、保護者や地域とより協働した活動をしていくことが課題である。

| 柱 | 中期経営目標 | 短期経営目標 | 具体的方策 | 取組指標(評価基準) | 成果指標(評価基準) |
|-----------|---|---|--|--|--|
| 確かな学力の向上 | ・生徒一人一人に分かる喜びを味わわせながら学力の向上を図る。 | ・生徒に基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるとともに知識・技能を活用させ、思考力・判断力・表現力等を育成する。 | ・各教科等で生徒の自己有用感の育成に係る指導場면을意図的に設定し、生徒の主体的な学習活動を促し、学びを確かなものとする。 | 4 具体的方策に係る指導の実施率90%以上 | 4 生徒の自己評価で、満足度90%以上 |
| | | | ・「清瀬の子供たちに育てたい四つの力」に基づき、それらを相互に関連付け力を育成し、ふるさと清瀬を誇りとする心を育てる。 | 3 具体的方策に係る指導の実施率80%以上90%未満 2 具体的方策に係る指導の実施率70%以上80%未満 1 具体的方策に係る指導の実施率70%未満 | 3 生徒の自己評価で、満足度80%以上90%未満 2 生徒の自己評価で、満足度70%以上80%未満 1 生徒の自己評価で、満足度70%未満 |
| 豊かな心の育成 | ・人権尊重の理念を正しく理解させ、自他の生命を尊重する心を育てる。 | ・体験的な学習活動(コロナ対策で中止となった場合はその関連学習)を通して、自ら学び考える力や自己有用感を養わせるとともに、協力する態度、思いやりの心を育てる。 | ・第1学年で認知症サポーター講座、救急救命講習、JICA、第2学年で職場体験(介護施設・保育所等)、第3学年で赤ちゃんのチカラPJ、JICAの代替学習(関連した内容を扱う授業)を「命と人権教育」として実施する | 4 「命と人権」に係る「関連学習」を年間4回以上実施 | 4 生徒の自己評価で、満足度90%以上 |
| | | | ・体験学習(関連学習)のねらいを「前に踏み出す力」「チームで働く力」「考え抜く力」の育成に置き、生徒の主体性を育てる。 | 3 「命と人権」に係る「関連学習」を年間3回以上実施 2 「命と人権」に係る「関連学習」を年間2回以上実施 1 「命と人権」に係る「関連学習」を年間1回以上実施 | 3 生徒の自己評価で、満足度80%以上90%未満 2 生徒の自己評価で、満足度70%以上80%未満 1 生徒の自己評価で、満足度70%未満 |
| 健やかな体の育成 | ・基本的な生活習慣、運動習慣を身に付けさせ、健康で活力あふれた身体の育成する。 | ・新型コロナウイルスへの対応を通して自らの心身の健康に対する意識の向上を図る。食育等の取組を通し、自ら学び考える力を養わせる。 | ・生徒の主体的な活動による、新型コロナウイルスへの対応を積極的に展開させる。 | 4 生徒による主体的なコロナ対応を年間3回以上実施 | 4 生徒の自己評価で、満足度90%以上 |
| | | | ・セーフティ教室や薬物乱用防止教室(あるいはその関連学習)を実施するとともに、生徒会活動などを通して生徒の主体性を育てる。 | 3 生徒による主体的なコロナ対応を年間2回実施 2 生徒による主体的なコロナ対応を年間1回実施 1 生徒による主体的なコロナ対応を実施せず | 3 生徒の自己評価で、満足度80%以上90%未満 2 生徒の自己評価で、満足度70%以上80%未満 1 生徒の自己評価で、満足度70%未満 |
| 特別支援教育の充実 | ・インクルーシブ教育を推進する。 | ・専門家や外部機関との連携を深め、指導や支援を得ながら指導の工夫改善に取り組む。 | ・外部機関との連携を深め、生徒や保護者を公的な支援から孤立しないようにする。 | 4 専門家や外部機関との連携した取組を全学年で実施 | 4 生徒を取り巻く環境が改善した割合90%以上 |
| | | | インクルーシブ教育の一環として、各教科及び行事、部活動等、様々な場面を利用して交流及び共同学習を行う。 | 3 専門家や外部機関との連携した取組を2つの学年で実施 2 専門家や外部機関との連携した取組を1つの学年で実施 1 専門家や外部機関との連携した取組を実施せず | 3 生徒を取り巻く環境が改善した割合80%以上90%未満 2 生徒を取り巻く環境が改善した割合70%以上80%未満 1 生徒を取り巻く環境が改善した割合70%未満 |
| 本校の特色 | ・キャリア教育の推進を軸に、保護者や地域に開かれた学校を創造する。 | ・家庭や地域、関係諸機関と連携し、体験的な学習(コロナ対策で中止となった場合はその関連学習)を通した命の教育の充実を図る。 | ・学校行事や体験学習(あるいはその関連学習)における保護者との協働を推進する。 | 4 保護者や地域と協働した活動を年間3回以上実施 | 4 「協働した」保護者の満足度90%以上 |
| | | | ・PTAや学校支援本部が参画し、協働する取組を実施する。 | 3 保護者や地域と協働した活動を年間2回実施 2 保護者や地域と協働した活動を年間1回実施 1 保護者や地域が参画した行事を実施せず | 3 「協働した」保護者の満足度80%以上90%未満 2 「協働した」保護者の満足度70%以上80%未満 1 「協働した」保護者の満足度70%未満 |
| | | | | 4 保護者や地域が参画した行事を年間3回以上実施 3 保護者や地域が参画した行事を年間2回実施 2 保護者や地域が参画した行事を年間1回実施 1 保護者や地域が参画した行事を実施せず | 4 保護者へのグループ・インタビューで、「極めて良好」(申し分なく達成)と評価 3 保護者へのグループ・インタビューで、「良好」(概ね達成した)と評価 2 保護者へのグループ・インタビューで、「もう一歩」(やや下回った)と評価 1 保護者へのグループ・インタビューで、「奮起を期待」(大きく下回った)と評価 |